

石川

ナオ

【人物】

東野 麦 (26) 会社員、営業事務

東野 冬香 (22) 麦の妹、大学生

塩見 盛雄 (55) 麦の上司

羽生 雪美 (26) 麦の同僚

湯川 奨 (41) 麦の同僚、営業

駅のアナウンス (声のみ)

パン屋の店員

キッチン用品店の店員

インテリアショップの店員

警備員

男 A

女 A

看護師

警察官

○麦の夢

白くぼやけた世界。

大きなメロンパンを枕に眠っている東

野麦（26）。

そのメロンパンに齧り付きながら寝言をぼやいている。

麦「痛い……ザラザラする……」

メロンパンに頬を擦り付けている麦。

表面の砂糖のざらつきに痛そうな表情。

麦「うーん……」

世界が真白く曇っていく。

○トーズ（株）・麦のデスク

デスクではっと目を覚ます麦。

市販のメロンパンを持ったまま寝ていた。メロンパンには齧り跡。

口元を拭っていると、湯川奨（ト）がやって来る。

湯川「おい、何寝てるんだ」

麦「二時まで休憩時間です」

湯川「今頃休憩とるなよ。じゃあこれ、コピー取っておいて。二時に会議だから、二十人分」

麦「え？ いやだから二時まで……」

湯川、十枚以上ある書類の束を置いて立ち去る。

時計の針、一時四十五分。

麦、口をへの字に曲げ、メロンパンにかぶりつく。

#### ○同・執務室内

コピー機前の麦、大きな溜息。

麦「DXとはなんだ。デジタル化など、ここには存在しない……」

叩くように印刷ボタンを押す。

後ろにやって来る湯川、腕時計を叩く素振り。

湯川「そんなゆっくりしてたら会議間に合わないよ」

麦「コピー機のスピードはこれが精一杯です、

書面ではなくパソコンで確認されては……」

湯川、最後まで話を聞かず遮る。

湯川「時間までにちゃんとまとめておいてね」

立ち去る湯川。

はあ？ という顔の麦、出力された紙を取り、ホチキス留めしていく。

× × ×

麦、疲れた顔でデスクに戻って来る。

隣の席に羽生雪美（26）。

雪美「ここ、あんまり真面目すぎない方がいいよ」

麦「え？」

雪美「目を付けられたら何でも頼んで来るから、適度に手を抜いてね」

麦「は、はあ……」

部長席の塩見盛雄（55）が立ち上がり

麦たちを手招きしている。

雪美、わざとらしく目を逸らし作業中の振りをする。

麦「え、ええ」（雪美に困惑）

麦、渋々塩見の元へ向かう。

× × ×

塩見、五枚くらいにまとめられた資料を麦に渡す。

塩見「この資料の要点、一枚にまとめといて」

麦、資料をパラパラ見る。

提案企画の利益効果をまとめた資料。

麦「既にまとまっているようですが、一枚にする必要はあるのでしょうか？」

塩見「（不機嫌）え？ わかりづらいんだよ、簡潔なものが必要なんだ、なる早ね！」

麦、あからさまに嫌そうな顔をしつつ頷く。

○同・麦のデスク

パソコンでAIチャット（チャットG

PT的なもの）を使っている麦

麦M「この資料をA4一枚にまとめてくださ  
い……と」

入力フォームにセリフの通り打ち込み、

PDFのデータを添付して、処理開始のボタンをクリックする。

すると「このサイトは利用禁止されています」と表示されてしまう。

麦「えっ？」

雪美「もしかして、AIチャット使おうとした？」

麦、怪訝な顔で雪美を見る。

雪美「なんかよくわかんないシステム使われたら困るから、って禁止したって通達がさつき回ってたの、見てない？」

麦「ええ〜：：：」

デスクに突っ伏す麦。

### ○自宅・リビング（夜）

壁の時計、二十時を過ぎている。

ぐったりした顔の麦が帰ってくる。

麦「ただいま：：：」

一人がけソファーに寝転がり、スマホゲームしている東野冬香（22）。

冬香「おかえり〜。今日もお疲れですねえ」

麦「ご飯は？」

冬香「まだ〜」

麦「昨日のビーフシチューあるんだから、温

めて食べればいいじゃない」

冬香「ええ〜？（めんどくさそう）」

麦「それくらいやってくれ妹よ……」

冬香「だってお姉ちゃんの方がご飯うまいも

ん。あ！でも、パンあるよ、パン！」

麦「パン？」

麦、キッチンカウンターにある紙袋を

見る。

× × ×

テーブルに並ぶシチュー、サラダ、高

級食パン。

麦、パンを食べて驚きの表情。

麦「何これ、ふわふわ、超ふわふわ。溶けち

やうくらいふわふわ」

冬香「バイト先のお隣に新しいお店ができて

ね、高級志向のパン屋さん！超高いの」

麦「ふーん」

冬香「でもオープン記念に、って、店長が貰ったのを分けて貰った」

麦「貰ったんじゃないかって奪い取ったんじゃないの？」

冬香「ひどくい、そんなことしません。ちよっとおねだりしただけです」

麦「へえ（信用していない顔）」

麦、あつという間に一枚食べてしまう。次の一枚を手にして柔らかさにうっとりしている。

麦「いいな……こんなパンに包まれてみたい」

冬香「え？　じゃあパン屋さんでもやる？」

麦「パン屋かあ……」

冬香「だって、事務の仕事なんていつ辞めさせられるかわかんないんでしょ、前みたい」

麦「前の会社はだって、あれはコロナで事業縮小しちゃったからで」

× × ×

キッチンカウンターの上に再就職手当の書類。

× × ×

普通にパンを食べている冬香。

冬香「今の仕事どうなの？ そろそろ一ヶ月ですよ〜」

麦、パンをしみじみ味わいながら食べている。

食べている間、手に持つパンの弾力を確かめている仕草。

麦「まあまあ……？ やること決まってるし」

冬香「ええ？ そういうのつまんなくない？」

麦「（苛立ち）つまんなくたって仕事は仕事、生活の為にはできる仕事をやるしかないの。そういう冬香は就職活動どうなの、まだ内定貰ってないの？」

冬香「その内何か出るって〜」

麦「その内ってねえ……。大学卒業したらこの家からも独り立ちしていただきたいんですか〜」

麦、わざとらしく嫌味っぽくいう。

冬香「まあまあまあ、まだ先のことじゃないですか。可愛い妹の面倒、もう少し見てやっってくださいよ」

麦「（呆れ）はあ……、お母さんに頼まれなかったら追い出してるよ」

冬香「ひどいっ！ あっ、そのパン貰っていい？」

麦「だめ！」

麦、皿に残していたパンを手で覆い、死守する。

### ○電車・車内（朝）

満員の車内で吊り革を持っている麦、目の前に座る乗客がパンを食べているのが気になる。

麦「パン……」

麦、乗客と目が合いそうになり、目をそらす。

○トーズ（株）・執務室

麦、大量の書類を持って忙しなく歩いている。

塩見「東野さん！　お客さん！　お茶！」

麦「はい！」

麦、慌てて書類を置き、執務室を出る。

○同・廊下

小走りの麦、湯川とすれ違う。

湯川「あ！　東野さん、次の会議室、プロジ

ェクター準備しておいて！」

麦、こんなところで言うなよという顔。

麦「（不服そうに）はい！」

麦、来た道を引き返す。

○街の中

ビルの電光掲示板、時計が十五時。

麦、財布を持ってフラフラ歩いている。

麦「お腹すいた……」

麦、ちらりと目を向けた先にパン屋。

焼き立ての内容が黒板に書かれている

○ f u w a f u w a ベーカリー・店内

多種多様なパンが並んでいる。

普通に惣菜パンなどを選びながら、ス  
イートブルなど大きめのパンに目が  
いく。

麦「はあ……包まれたい……」

トングの先端でふわふわ加減を確かめ、  
プレートに乗せる。

プレートにはパンがいっぱい。

○ トーズ（株）・麦のデスク

麦、大量のパンをデスクに広げている。  
食べているのはサンドイッチ。

雪美、不思議そうに声を掛ける。

雪美「そんなに食べるの…… お昼遅かったか  
らって食べ過ぎ……？」

麦「ううん、どれが気持ちいいかと思って」

雪美「気持ちいい？」

麦「ふわふわのパンに包まれたくて……」

雪美「（困惑し小声）疲れておかしくなっちゃった……？」

麦「……？」

麦、サンドイッチを頬張りながら、コッペパンを持ち上げ、感触を頬で確かめている。

### ○自宅・ダイニング（夜）

麦、テーブルのど真ん中に食パン一斤をドンと置く。

麦「やっぱり食パンでした」

冬香「（困惑）何が？」

麦「気持ち良さそうなパン選手権」

冬香「なんの戦い？」

麦「硬くてはダメ、かといって柔らかすぎてもダメ、総合評価から食パンとなりました」

冬香「はあ、はい」

食パンに頬擦りしている麦へ、心配そうな視線を向ける冬香。

冬香「食パンの形した枕でも買って来たら？」

ホームセンターで見たよ」

麦「ううん、形じゃなくて、パンをください」

引いている表情の冬香。

麦、再びパンを頬擦りする。

○同・リビング（夜）

麦、ノートパソコンを操作している。

風呂上がりの冬香が通りかかる。

冬香「ええ？ 家でまで仕事？」

麦「ちよつとでも楽したいの」

冬香「いや、家でやってる時点で楽しんでない

よ」

麦「先、寝てていいよ。起こしたらごめんね」

冬香「別にいいけどさ……」

冬香呆れ、溜息をついて寝室へ行く。

パソコンをずっとガン見している麦。

× × ×

麦、リビングのテーブルに突っ伏して

眠ってしまったている。

タオルを食パンのような形にして枕に

している。

トイレから戻ってきた冬香、枕に気がつく。

冬香「やっぱりパン……（苦笑）」

パソコンの画面にエクセルの表やパワーポイントの営業実績グラフ資料、途中のまま。

冬香「こんなん見せられて、就職頑張れって言われましても先輩……」

冬香、溜息。

× × ×

麦の背中からブランケットがかかる。

麦、何かむにやむにやと寝言。

部屋の電気が消灯される。

○同・同（朝）

テーブルで目が醒める麦。

麦「……しまった……」

麦、口元を拭い、パソコンを見る。

麦「出来てない……」

麦、時計を見る。

× × ×

寝起きの冬香がやってくる。

出勤しようとしている麦。

冬香「あれ？ いつもより早くない？」

麦「うん、昨日寝ちゃったから、早めに出てくる」

冬香「（あくびしながら）あゝ……そう、行ってらっしゃい」

部屋を出ていく麦。

○ 駅・ホーム（朝）

麦、ホームに立ってあくびをしている。

電光掲示板に遅延の表示。

麦「えっ……」

麦、その表示を見て驚き。

アナウンス「人身事故により、ただいま電車の到着が大幅に遅れております。お急ぎのところご迷惑をおかけし……」

ざわつく周囲の客。

麦、溜息をついてスマホで電話。

麦「すみません、東野です、ちよつと遅れそうで……はい、すみません」

麦、電話を切り、溜息。

麦「折角早く出てきたのに……」

反対側のホームに電車が到着。

肩を落とす麦の様子が車体に反射し映る。

### ○電車・車内

全く身動き取れない人の量で密集している。

アナウンス「この度は到着が遅れ誠に申し訳ございません……」

この状況下で、席に座りパソコン作業をしている人がいる。

麦、その人を見て唇を噛む。

### ○トーズ（株）・執務室

慌ててやってくる麦。

麦「すみません、電車が……」

塩見「そういうのいいから、早く会議準備して！」

麦「（不服そう）はい」

麦、上着も脱がずに鞆からノートパソコンを取り出す。

デスクの上にあるファイルも持って執務室を出る麦。

壁の時計、十時前。

× × ×

塩見の席の前に立っている麦。

塩見「資料できていないならいないって、早めに言ってくれるかな？」

麦「はい、申し訳ございません……」

麦、頭を下げる。

× × ×

壁の時計十二時前

席に戻ってくる麦。

パソコンを開いて早々、データが届く通知。

「このデータでグラフ資料作っておい  
てください、13時の会議で使います

／湯川」

雪美「じゃあ、お昼行ってきますーす」

雪美、立ち上がり去っていく。

麦「あ……」

麦、溜息をついて、エクセルを立ち上  
げる。

× × ×

壁の時計、十五時になっている。

戻ってくる麦、時計を見てげんなりと  
した表情。

雪美「あれ？ 東野さん、お昼行った？」

麦、どの口でそれを言うのかと雪美を  
睨みたいが我慢している表情。

麦「会議準備と資料作成が多くて、……行っ  
てきます……」

トボトボと出ていく麦。

○ f u w a f u w a ベーカリー・外（夕）

財布だけを持つ麦がやってくる。

麦「パン……！！」

麦、吸い込まれるように店に入る。

○同・店内（夕）

麦、焼きたての食パンが並んでいるのを眺めている。

トングでそっと柔らかさを確かめる。

麦「ふわふわ……」

麦、近くの店員に声をかける。

麦「あの、この店で一番大きなパンはどれですか？」

店員「えっと、スイートブルですかね？」

麦「いえ、できれば食パンで」

麦、近くの二斤食パンを指差す。

店員「え、これより大きいものということですか？」

麦「はい」

店員、店の奥の工房を見る。

店員「多分六斤くらいですかね……？」

麦「そうですか……、枕にするのがせいぜい  
といったところですね……」

店員「枕？」

麦「あ、すみません、大丈夫です」

店員、首を傾げながら去る。

麦、ガツカリしつつ適当にパンを取り  
始める。

○トーズ（株）・執務室（夕）

あんぱんを食べながら残業している麦。  
周囲や雪美は帰り支度。

雪美「じゃあお先です、あまり無理しちゃダメですよ？」

麦、なんでお前は帰れるのだとやや力なく睨む、雪美は動じない。

麦「はい、お疲れ様です」

雪美を見送り、パソコンに向き直す麦。

麦「はあ……今日も持って帰るか……」

塩見「ああ、東野さん」

塩見、部長席から立ち上がって呼びか

けてくる。

塩見「君、家に帰ってから残業してたでしょ。  
総務からそういうの禁止って、注意がきて  
いるから！ 困るよ！」

麦「すみません。ですが……」

塩見「君はもう、パソコン持ち帰りを控えて！」

麦、マジかよと愕然とする顔。

### ○同・執務室（夜）

照明の消えたオフィスに麦が一人。

懐中電灯を持つ警備員がやってくる。

警備員「もう閉める時間ですよ？」

麦「あ……すみません」

警備員、去っていく。

麦、デスクの卓上カレンダーを見る。

金曜日のところに「本日」の付箋。

麦「……明日、やるか……」

麦、溜息をついてパソコンを畳む。

○駅・ホーム（夜）

電光掲示板に遅延の表示。

アナウンスの声「人身事故により、ただいま電車の到着が遅れております」

周囲のざわめき、またかの声。

麦、何も見ている様子はなくぼんやり立っている。

向かいのホームに電車が到着する。車体に麦の疲れた顔が反射し映る。

○自宅・リビング（夜）

帰ってくる麦。

麦「ただいま……」

冬香「おかえり〜」

冬香、ソファでスマホゲームをしている。

麦「晩ごはんは？」

冬香「え、まだ」

麦「（苛立ち）今日のご飯無理」

冬香「え、パンでもいいよ？ え、それパン

じゃないの？」

麦、f u w a f u w a ベーカリーの紙袋を持っている。

麦「いや、そうじゃなくて。(ぼやく) そもそもなんで私が作る係なの……」

麦、深い溜息。

× × ×

冷凍食品の惣菜と、レトルトご飯(パツクそのまま)を食べている麦と冬香。

冬香「言ってくれば、ご飯くらい炊いたのに」

麦「言わなくてもやって欲しい、それだけでも君の評価は爆上がりするよ」

冬香「え、私の評価今どのくらい？ 底辺？」

麦「(淡々と) マリアナ海溝くらい」

冬香「ド底辺」

麦、黙々とご飯を食べている。

冬香「っていうか、本当にパンで良かったのに。最近お姉ちゃん、パンにハマってるでしょ」

麦「別に食べたいわけじゃない」

冬香「（驚き呆れる）あんなに買ってきておいて……」

冬香、f u w a f u w a ベーカリーの袋を指す。

麦「あれは食べたくて買ったんじゃない」

冬香「え？　じゃ、じゃあ、何？」

麦を見る冬香、無言の麦。

× × ×

リビングテーブルにノートパソコン（会社のは別の機種、麦のプライベート用である）が置かれている。

その横に食パンを置き、それを枕にして眠っている麦。

寝室から出てくる冬香、麦の様子に驚く。

冬香「マジかよ」

寝息を立てている麦、険しく眉間に皺。

## ○麦の夢

食パンの上で眠っている麦。

その食パンがどんどん齧られていく。

気づいて慌てる麦。

麦「え……なんで……」

パンにかぶりつく湯川が現れる。

湯川「（もぐもぐ食べながら）頼んでた資料、

まだ出来てないの…… 十二時までになって言  
ったよね」

パンにかぶりつく塩見が現れる。

塩見「（もぐもぐ食べながら）いつまでその  
資料作ってるの…… そんなものに時間かけ  
て貰っちゃ困るんだよ」

どんだん齧られていく食パン。

麦の体が落ちそう。

麦「ああああああ………！！」

狼狽える麦。

### ○自宅・リビング（朝）

テーブルに突っ伏して眠っていた麦、

目を覚まし、体を起こす。

麦「なんか、やな夢見たな……。やっぱり、枕ごときではダメか」

枕にしていた食パンが凹んでいる。

× × ×

麦、トーストした食パンを齧りながらジャケットを羽織っている。

食パン、真四角形ではなく「凹」っぽく歪んでいる（麦が枕にしていたので凹んでいる）

眠そうにやってくる冬香。

冬香「あれ？ 今日仕事？」

テレビ「○月○日土曜日の天気予報」

と表示されている。

麦「うん、仕事が終わってなくて」

冬香「ええ？ 頑張りすぎじゃない？ 昨日

もまた遅くまでやってたでしょ」

麦「転職したばかりなもの、やれることやっておかないと……。ああ、パンいっぱいあるから好きに食べて」

テーブルの上にトースト済みのパンが

数枚。どれも「凹」の形に凹んでいる。

冬香「え、これ昨日枕にしてたやつでは？」

麦「行ってきます」

冬香「ああ、うん、行ってらっしゃい。」

麦、部屋を出ていく。

首を傾げながら食パンを齧る冬香。

○トーズ（株）・執務室

誰もいないフロア。

何もつけていない厚切り食パンを齧り

ながら、一人パソコンを打っている麦。

麦「（パンを食べながら）はあ……ふわふわ

……ふわふわが欲しい……」

大きく溜息をつき、項垂れる。

ぼんやりとした顔で、ウェブの検索画

面に食パンと打ち込む。

モニタが食パンの画像で埋まる。

麦「パン……ふわふわのパン……」

麦、ずっとパンの画像を眺めている。

会社の電話が鳴る。ハツとする麦。

パンの画面を閉じ、電話に出る。

麦「はい、トーズ株式会社……」

塩見の声「東野さん？　ちよつと、何勝手に出勤してるの?!」

麦「あの、月曜日までに終わらせなければいけない仕事があるので」

塩見の声「だからって、勝手に休日出勤されたら困るよ！」

麦「ですが、今日やらないと間に合わ……」  
塩見の声「すぐ帰って！　いいね！」

電話の切れる音。重々しく受話器を置く麦。溜息をつきながら立ち上がる。

### ○街中

ぼんやり歩いている帰宅中の麦。

キッチン用品店の前を通りかかる。

「製パン用品多数あります」のPOPが目につく。

### ○キッチン用品店・店内

食パンの型を見ている麦。型には2斤の表示。

麦「これで2斤……」

麦、通りかかる店員を呼び止める。

麦「あの、パンの型ってこれだけですか？」

店員「はい、でもお取り寄せも可能です」

麦「100斤くらいの型ありますか？」

店員「はあ？」

意味がわからなない店員、至って真剣な顔の麦。

○インテリアショップ・店内

巨大ビーズクッション（yogiboのような）の上に横たわっている麦。

麦「これくらい……？ いや、こんなんじゃ

足りない……、もっと。100斤じゃ足り

なかったな……」

店員が笑顔で売り込みにやってくる。

店員「お客様、気持ちいいですよ、お気に

召されましたか？」

麦「あの、これ、パンで作ることできませんか？」

店員「はああ？」

意味がわからない店員、至って真剣な顔の麦。

○線路沿いの道（夕）

とぼとぼと歩いている麦。

麦「一体どうすれば、食パンに包まれることができるんだろう……ふわふわ……」

○近くの駅（夕）

顔色の悪い男Aが1番ホームに立っている。

ぼんやり線路を眺めている。

スマホの震え、取り出し「仕事終わってないのに何帰ってんだ！」のメッセージを見る。

震えている男の手。

近くの女A、男の様子に気がつく。

女 A 「あの、大丈夫ですか……？」

男 A の向かい側の 2 番ホームに電車が到着する。

車体に反射して男 A と女 A の姿が映っている。

男 A 、車体をぼんやり眺める。

アナウンスの声「まもなく、1 番ホームに電車が参ります。黄色い線の内側にてお待ちください」

1 番ホームへ近づいてくる電車。

男 A 、吹っ切れたような笑顔を見せる。

男 A 「はい、大丈夫です」

ホームから男の姿が消える。

(線路に飛び込んでいる)

### ○線路沿いの道(夕)

とぼとぼと歩いている麦。

電車が到着し、近くの駅から何かがぶつかる音。

女 A も含めた大きな悲鳴が響く。

麦、気にせず歩いている。

○自宅・リビング（夜）

帰宅する麦。

ソファーに座っている冬香。

冬香「おかえり〜、お疲れ様」

麦「うん……」

ふらふらとソファーに倒れ込む麦。

冬香「ちよつと〜大丈夫？ 休日出勤なんて

するからだよ？」

麦「うん……」

冬香「もう〜、しっかりして！」

寝そべっている麦に覆い被さる冬香。

何か匂いを嗅ぎ、臭そうな顔をする麦。

麦、ガバツとすぐに起き上がる。

冬香「どうかした？」

麦「冬香、柔軟剤か何か変えた？」

冬香「え？ 別に変えてないけど、同じの使

ってんじゃない」

麦「ああそう……。着替えてくる」

寝室に向かう麦。

麦M「なんかくさい、変な匂い。昨日お風呂入ってた？ 入ってたよね……？ 何だろう」

冬香を見る麦、自分の袖の匂いも嗅ぐ。首を傾げつつ、まあいいかと寝室へ入る。

× × ×

テーブルに夕食。生姜焼き、長芋のソテー、卵サラダなど、疲労回復系のメニュー。

向かい合って座る麦と冬香。

冬香「最近、お姉ちゃん疲れてるから、たまには作りましたよ、この私が。さあ褒めて褒めて」

麦「ああ……うん」

麦、興味が薄そうな顔。

冬香「何その反応、ええ？ いつも作れって言うから作ったのに！ しかもどう見たって美味しそうじゃん！」

麦「いや……うん、ありがとう。いただきます」

冬香「どうぞー（不貞腐れて棒読み）」

生姜焼きを食べる麦、首を傾げる。

冬香、麦を見つめ感想が気になっている様子。

冬香「ほらほら、底辺の評価から浮き上がる出来じゃないですか？」

麦「なんか、薄味……だね？」

冬香「えっ？　そう？　……そう？」

冬香、生姜焼きを食べてみるが、首を傾げ、そんなことはなさそうな顔をしながらもぐもぐ食べる。

麦、他の料理にも手をつけるが、美味しそうな顔をしない。

冬香「え、ガッツリ生姜焼きの元を使ったのに？　ちゃんと味するよ？」

麦「そっか、そうだね、大丈夫、美味しい、大丈夫（言い聞かせるように）」

冬香「ええ……（不満そう）」

無表情で食べ続ける麦。

○同・キッチン（夜）

冬香、麦の皿にちよつと残っている生姜焼きを捨てている。

冬香「（小声）不味いなら不味いって言えばいいじゃん……っていうか、全然美味しかったし、折角作ってあげたのに、何？」

冬香、ぶつくさ文句を呟きながら、皿を洗っている。

リビングをチラ見、麦はパンを食べている。

冬香、思い切り不貞腐れる。

冬香「もうっ！　パン以外食うな！」

冬香、スポンジをシンクに叩きつける。麦は無反応。

○同・リビング（夜）

ソファーにぼんやり座っている麦。

右手にパン、左手にはブラツクコーヒ

ーの入っているマグカップ。  
コーヒーを飲み、顔をしかめる。

麦「まずっ……。何これ、賞味期限切れだっ  
け……。？」

麦、匂いを嗅ぎ、臭そうな顔をしてマ  
グカップをテーブルに置く。

だらんとソファーに寝そべる麦、テレ  
ビのリモコンを持ち、サブスク動画サ  
イトをザッピンングしている。

検索ワードに「癒し パン」を入力。  
「手作りに挑戦！」というカテゴリで  
パンを中心としたグルメ系の番組と、  
「ふれあい動物ランド」というカテゴ  
リで、もかもこととした動物系の作品が  
並ぶ。

麦「はあ……。そういうふわふわじゃない：  
……」

画面をスクロールしていき、「いっそ  
世紀末を駆け抜けろ！」というカテゴ  
リでマッドマックスやゾンビ映画など

が並んでいる。その中に映画AKIR  
Aがある。

麦の操作しているカーソルがAKIR  
Aで止まる、サムネイルで鉄雄が膨張  
していくワンシーンが流れている。

× × ×

洗い物を終えた冬香がリビングへやっ  
てくる。

冬香「えっ、何見てんの？」

麦、ぼんやり鉄雄が膨張し肉塊になっ  
ていくシーンを見ている。

麦「これよ、これ」

冬香「え？」

麦「こんな感じで包まれたい」

冬香「ええええ？」

膨張した鉄雄に包まれて、カオリが圧  
死してしまいうシーンが映る。

冬香「いや、これ、潰れちゃってるけど？」

麦「うん、だからもつとふわふわにしないと

ダメなのね」

冬香 「（困惑）は、はあ……」

冬香、首を何度も横に振り、溜息をついて麦の腕を掴み立ち上がらせる。

冬香 「お姉ちゃん、多分今日はもうダメ、ダメダメ。もう寝よう。あつたかいお風呂入って寝て、さあ」

麦 「う、うん……」

なんで？ という顔をしつつも風呂へ連れていく冬香に従う麦。

○同・寝室（夜）

麦、ベッドの上で寝返りを打っている。時計は0時過ぎ。

床に布団を敷いて寝ている冬香、すやすや寝ている。

目を開け眠れない様子で溜息をつく。

麦M 「眠いのに眠れない……」

麦、強く目を瞑る。

○同・キッチン（夜）

麦、紙袋の中から食パンを取り出す。  
黙々と齧りながら寝室へ戻る。

○同・寝室（夜）

時計が午前3時ごろを表示している。  
寝息を立て始める麦。

枕元に半分くらい食べられた食パン。

○麦の夢

白くぼんやりした世界、宙を浮いている麦。

地上に大きな食パンを見つけて笑顔。

麦「ふわふわの……パン……！」

パンの上に飛び込もうとするが、パンが逃げていく。

麦「パン……！　なんで………お願い、待って……」

必死に追いかけてようとする麦、近づけず。パンは遠ざかっていく。

○自宅・寝室（朝）

スマホの目覚ましアラームの音。

麦、重々しく起き上がる。

麦「パンじゃない……」

麦、布団を見る。

麦の顔、目の下にクマがある。

麦「だめだ……昨日も今日も眠れなかった……」

スマホ画面を見る。月曜日の日付。

○同・キッチン（朝）

仕事着に着替え済みの麦、冷蔵庫の中に何か探している。

パジャマのまま眠そうにやってくる冬香。

冬香「おはよ……、どうしたの？」

麦「パンは……？」

冬香「パン？ お姉ちゃんが食べたり寝たりするからなくなったよ。しかも昨日は食べながら寝てたでしょ、信じられない」

麦 「（思い詰めたように）あんなに買ってきてたのに……もっと買わなきゃ……」

冬香、麦の様子にドン引き、苛立ち始める。

冬香 「もうくなんなの、パンパンパン、パンばかり、パン中毒」 そんなにパンがい  
いならお姉ちゃんがパンになればいいよ！」

麦 「それ、いいね」

冬香 「はあああ？」

麦 「パン買ってから会社行くから、もう行くね」

冬香 「（投げやりに）ああそう！ いったらっしやい！」

部屋を出ていく麦。

○トーズ（株）・外の広場（朝）

ビルの入口前にある広場。

グルメイベントの準備が行われている。  
キッチンカーやイベントテントが多数  
並んでいる。

出勤する麦、その間を歩いていく。  
手にはパンの入った袋。

○同・執務室

自席でパソコン操作している麦。

4つ切り食パンを頬に当て、感触を確かめながら溜息。

雪美、その様子に怪訝な表情。

雪美「東野さん……大丈夫……？」

麦「（よくわかっていない）え……？」

塩見の声「東野さん！ ちょっと！」

麦「は……は……はい」

立ち上がる麦、見送る雪美。

雪美「なんか、ヤバげな予感……」

× × ×

塩見の席の前にいる麦。

塩見「勝手に休日出勤されたのもそうだけど、

君は残業も多すぎる。このままじゃ36協

定に引っかかるだろう？」

麦「はい……、ですが」

塩見「働き方改革ってうるさいし、労基に引  
つ掛かったら面倒なんだよ。減らしてくれ  
なきゃ困る」

麦「ですが、あの、仕事が残っていますので」  
塩見「それは早く終わらせて、そしてとつと  
と帰るように」

麦「はい……」

麦、ひたすら腑に落ちない表情。

× × ×

麦のデスク、大量の書類が置かれてい  
る。ひたすらパソコンを打つ麦。

隣の雪美、書類が少ない、麦の様子を  
見ながらやれやれという顔。

塩見の声「東野さん！」

麦、慌てて立ち上がり、塩見の席へ向  
かう。

席に座っている塩見、手にしている書  
類を指差している。

塩見「何なのこの資料。間違いだらけだよ」  
あれだけ残業してたくせにこれでは、時間

の無駄遣いも甚だしい！」

麦「すみません、時間がなくてチェックする暇がなく……」

塩見「はあ？ 何の為に残業してたの。チェックする時間がない？ そんな言い訳より、頼まれた仕事は最低限してくれるかな」

麦「わかりました、今日残って確認します」

塩見「だーかーら、さっき残業多すぎて困るって、言ったよね」

麦「ですが時間がないので」

塩見「時間は作って」

麦「残業をできないのに時間は作れません」

塩見「何でそうなるんだよ。他の仕事をどうにかして、時間を作ればいいだろう？」

麦「他の仕事をどうにか出来るんですか……？」

麦の背後、湯川が麦のデスクに書類を置いて去っていく。

塩見「どうにかするのも、君の仕事だろう」

麦、俯き、視線を泳がせる。

塩見「とーにーかーく、この書類、チェックして今日中に再提出！なる早で！」

塩見、書類を麦に突き返す。

麦、書類を力無く受け取り、泳ぐ視線が窓の外に向く。

ビルの下に広場。広場には設置済みのイベントテントが多数。

### ○同・外の広場

グルメイイベントの設営がされている。テントの中で準備を進めているスタッフたち。

### ○同・執務室

窓から見えるテント。

テントの屋根が風で揺らめき、丸く膨らんでいるように見える。

テントの中から白い湯気が立ち上る。

麦「……パン……？」

塩見「は？」

麦、持っていた書類を落とし歩き出す。

塩見「お、おい！」

塩見、落ちた書類を取り、麦に叩きつけようとしますが麦は窓へ向かって歩いてゆき、当たらない。

麦「パン……ふわふわの、パン……」

麦、感動の表情で窓の下を見る。

テントが食パンに見え始める麦。

テントに食パンの画が重なる。

塩見「お、おい……」

麦「見つけた、やっと……」

麦、窓を開ける。

驚く塩見。デスクの書類が風に舞う。

× × ×

お菓子を食べながら麦の方を見る雪美。  
何しているんだと眉間に皺を寄せて麦  
を見る湯川。

× × ×

麦、窓の棧に足をかける。

○同・執務室の窓ゝ外の広場

五階の窓から勢いよく飛び降りる麦。

麦「パーパーンニ」

「花のワルツ」のようなクラシック音楽と共にゆっくり落ちていく麦。

飛び降りる麦の背後、食べていたお菓子を落とし唾然としている雪美。

落下する麦。

その上空を大量の白い書類が鳩のように舞う。

窓から覗き込む塩見、雪美、湯川たち、驚愕の表情。

麦の体が背中からテントに落ちる。深く沈むテントの屋根。

遠くから聞こえる機材の崩れる音や、人々の悲鳴。

麦、恍惚の表情。

麦「ああ……ふわふわ……」

白い湯気が煙となっていく。

テントが燃え始め、煙が麦を包む。

○麦の夢

大きな食パンの上に横たわっている麦。

麦「ふわふわ……やっと手に入れた……。ふわふわ、ずっとこのまま……私もふわふわに……」

目を閉じる麦。

世界が煙に包まれるように白くなっていく。

○病院・病室

麦、ゆっくりと瞼を開ける。

無機質な部屋、心電図の音。

白いベッドが一台、白いシート。

麦の額に包帯、頬にガーゼ。

麦「ふわふわ……？」

近くに看護師が立っている、目覚めた麦に気が付く。

看護師「東野さん？　大丈夫ですか？　見えてますか？」

麦「はい……。ここは？」

看護師「病院です。覚えておられませんか？」  
麦「病院……？」

看護師「（言いづらそうに）あの……、昨日、ビルから飛び落ちられて……」

麦「ああ……、あれこそ探していたパンでした……」

看護師「パン？」

麦「凄く、ふわふわで気持ちよかったです」

看護師「ふわふわ……？ ああ、これ最近入れ替えたばかりのテンピュールのベッドですから、ぐっすり眠られたんですね」

麦「え……」

ゆっくり上半身を起こす麦、枕や布団を触り確かめる。

麦「いや、パン……」

看護師「今、先生呼んできますね」

看護師が去り、病室に取り残される麦。状況が飲み込めていない顔。

× × ×

ドアの向こうから慌てて駆けて来る足

音。

麦の部屋の前で止まる。

警察官の声「まだ記憶がはっきりされていてないみたいですので」

冬香の声「わかりました、すみません」

病室のドアが開く、ドアの外にいる警察官に頭を下げてから入ってくる冬香。

冬香「お姉ちゃん……」

ベッドに駆け寄る涙目の冬香。

麦、不思議そうに冬香を見る。

冬香「よかった、本当によかった」

麦「うん……？」

冬香「ダメだよ、だめだめだめだめ、絶対死んじゃダメなんだからね」

麦「え？」

冬香、ついに泣き出す。

冬香「そんなに悩んでいたなんて、気づけなくてごめん……。私ちゃんと就職考える、家事もちゃんとする、だから死なないで」

麦「どうしたの、私、別に死にたくないよ？」

冬香「じゃあ……何で飛び降りちゃったの？」

麦「だって、そこにパンがあったんだもん、

大きな食パンが……」

天井をぼうつと見上げる麦。

麦「ふわふわで気持ちよかったのになあ……」

冬香「お姉ちゃん、もう休もう。明日にはお

母さんも来るから」

冬香、涙を流して麦の手を握る。

麦、ぼーっと天井を見続けている。

麦N「人は案外……」

○ 駅・ホーム

ラッシュアワーのホーム。

電光掲示板に遅延の表示。

アナウンスの声「人身事故により、ただいま

電車の到着が遅れております」

麦N「不意に命を手放してしまうわけではな

く、ふと天国を見つけてしまっただけなの

かもしれない」

ホームに立っている中年男性、スマホ

のニュースサイトを見ている。  
政治や経済のニュースタイトルの中、  
「ストレスを苦に飛び降りか」の見出し。

○トーズ（株）・執務室（朝）

麦のデスクだった場所、荷物が空になっ  
っている。

そのデスクを見ている雪美。

雪美「そこまでしてパンを追いかけてな  
たっ  
て……ねえ」

雪美、溜息をつく。

その後ろを、段ボールを持ち、肩身狭  
そうに歩く塩見が通り過ぎていく。

雪美の元へやってくる湯川。

雪美「げっ……！」

あからさまに嫌そうな顔をする雪美。  
たじろぐ湯川。

○自宅・リビング

テーブルの上に傷病手当の申請書類。

T 「数日後」

書類を記入している麦。

頬に赤い火傷の痕が微かに残っている。

書き終えて湯気の立つコーヒーの香りを嗅いでから飲む麦。

麦 「いい匂い……、うん、いつもの味に戻っ

た……」

麦、もう一口コーヒーを飲む。ほっと一息。

冬香、その様子を後ろから見て心配そうな顔。しかし頭を横に振り、笑顔を作る。

冬香 「お姉ちゃん、ちよっとやってみない？」

麦 「ん？」

振り返る麦。

○同・キッチン

ボールが二つ、どちらも中に作りかけのパン生地。

冬香「これをね」

冬香、まな板の上に生地を叩きつける。

冬香「スカッとするよ、どう？ ムカつくこ

ととか、こう、バン！ って」

麦「うん……」

何度も生地を叩きつける麦、叩きつけ

ながら鬱憤を吐き出していく。

麦「あの、クソ上司……！ あの、クソ営業

……！ 他の奴らも……、知らない振りす

んな……」

冬香「うん……、うん……！」

冬香、麦と一緒に生地を叩きつける。

麦、生地を叩きつける内に涙が溢れ出す。

涙を拭い、小麦粉が頬につく。

気にせず、生地を叩きつけ続ける。

× × ×

麦、出来上がった食パンを恭しく掲げるように持っている。

満足げな表情。

麦「とつととパンにしてやればよかった」

麦、食パンの香りを嗅ぎ嬉しそうな表情。そして思い切りかぶりつく。

冬香「えっ……そのまま……」

麦「おいしい〜！」

モリモリ食べる麦。

冬香、呆れているようで安堵の表情。

冬香「私も食べる！」

麦「ほら、はい！」

麦、大胆にパンを大きくちぎり、冬香の口に押し付ける。

冬香「うぐっ……（食べていく）おいひい〜」

冬香の様子に笑う麦。

パンをちぎってまた食べ、笑顔。

【了】